

日本語と中国語における使役起動交替

— 中国語の単音節動詞の場合を中心に —

崔 玉 花

1. はじめに

動詞の自他交替とは、典型的には次のように、他動詞と自動詞が同じ形態（語幹）を有し、自動詞文の主語に当たる名詞句が他動詞文では目的語に対応する「使役・起動交替（Causative-Inchoative Alternation）」を指す。

- (1) a. My computer broke.
a'. 私のコンピュータが壊れた.
b. John broke my computer.
b'. ジョンが私のコンピュータを壊した.
(2) a. 我 的 电脑 坏 了。
 私 の コンピュータ 壊れる Asp
b. *约翰 坏 了 我 的 电脑。
 ジョン 壊れる Asp 私 の コンピュータ

(1)における自動詞文は、「私のコンピュータが壊れる」という起動的出来事を表すが、それに対応する他動詞文は、主語のジョンがその出来事を引き起こしたという使役的状态を表す。この場合、英語の“break”は、同形態で使役起動交替を起こすが、それに対応する日本語では、「壊れる kowa-re-ru」と「壊す kowa-su」のように、共通の語幹に何らかの接尾辞¹が付加されることで使役起動交替が行われる。

一方、自他の形態的区別を持たない中国語では、(2)で示したように、“break”に相当する単音節動詞²“坏(huai)”は、自動詞用法しかもたず、使役起動交替を起こさない。しかし、以下で示すように、中国語にも一見、同形態で使役起動交替を起こすように振る舞う単音節動詞が存在する。

- (3) a. 张三 卖 了 那 本 书。
 Zhangsan 売る Asp あの CL 本
b. 那 本 书 卖 了。

- (4) a. Zhangsan があの本を売った.
 b. あの本が売れた.

これまでに中国語の単音節動詞の使役起動交替の問題を論じている研究では、単音節動詞による使役起動交替は基本的に不可能であるという立場（望月（2003、2004）、Lin（2004））³と(3)で示したような交替を使役起動交替と見なす立場（Cheng（1989））の間で議論が分かれている。本稿も前者の立場を支持するが、望月（2003、2004）Lin（2004）では、(3)で示したような交替に関しては、特に言及していない。そこで本稿では、(3)のような現象を日本語との比較を通じて再検討し、上記の単音節動詞の示す交替は、使役起動交替とは別のものであることを示す。また、上記のような単音節動詞が使役起動交替を起こさない理由についても考察する。

本稿では以下の要領で議論を進める。まず、使役起動交替の成立条件に関する従来の分析を概観する（2節）。次に、(3)で示したような交替を使役起動交替と見なす Cheng（1989）の問題点を指摘し（3節）、いくつかの証拠に基づいて、表面上の自動詞文における文頭の名詞句は主題であり、これらの動詞は他動詞用法しか持たないことを示す（4節）。次に、2節で述べた使役起動交替の成立条件に基づいて、中国語の単音節動詞が使役起動交替を起こさない理由について考察する（5節）。最後に、本稿のまとめと残された課題について述べる（6節）。

2. 使役起動交替の成立条件に関する従来の分析

使役起動交替に関する代表的な研究として Levin & Rapaport Hovav（1995）、影山（1996、2000、2001）が挙げられる。これらの研究では、主に、動詞の語彙概念構造に着目し、使役起動交替を起こすのは、(5)のような意味表示をもつ使役他動詞、つまり達成動詞であるとし、対応する自動詞は、使役主にあたる項が項構造にリンクされないことから生じるとする。これは、(6)で示すように、純粋な行為だけを表す“push”と「押す」のような動作動詞（結果の状態を含意しない動詞）が使役起動交替に参加できない事実から支持される。

- (5) [[x DO-SOMETHING] CAUSE [y BECOME [BE AT z]]

— Levin & Rapaport Hovav（1995）

- (6) a. He pushed the wall. a'. 彼が壁を押した。 / *The wall pushed.
 b. *The wall pushed. b'. *壁が押した。 *壁が押さった (-ar).
 *壁が押せた (-e)。

— 影山（2001:34）

しかし、使役他動詞であっても、出来事の成立に動作主の存在が前提となる場合、以下で示すように、英語と日本語では異なる振る舞いを見せる。例えば、「木が植わる」「新しい家が建つ」というのは、「誰かが木を植える」、「誰かが家を建てる」という動作主による使役行為を前提とする。この場合、英語の“plant”“build”は、他動詞用法しか持たないが、それに対応する日本語では、「植えるー植わる」「建つー建てる」のように、使役起動交替が成立する。

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------|
| (7) a. They <u>planted</u> a tree. | a'. 彼らは木を <u>植えた</u> 。 |
| b. *A tree <u>planted</u> . | b'. 木が <u>植わっていた</u> 。 |
| (8) a. They <u>built</u> a new house. | a'. 彼らが新しい家を <u>建てた</u> 。 |
| b. *A new house <u>built</u> . | b'. 新しい家が <u>建った</u> 。 |

影山は上記の違いを、自他を転換する接辞の有無に基づいて説明している。影山は、日本語が英語と異なり、自他を転換する豊富な接辞体系をもつため、(9)で示すように、他→自、自→他という双方向のヴォイス転換⁴が可能であり、特に、英語に欠如している使役化と脱使役化の操作も可能であるとする。したがって、英語と異なり、「建つー建てる」「植えるー植わる」のようなペアが存在するわけであるが、影山によれば、前者は、自動詞を基本とし、そこに使役化接辞 -e- が付加されることで他動詞が派生され、後者は、他動詞を基本とし、そこに脱使役化接辞 -ar- が付加されることで、自動詞が派生されることになる。

- (9) a. 自動詞から他動詞への転換 : 使役化接辞 'e-' 'as-, -os-'
 b. 他動詞から自動詞への転換
 (i) 反使役化: 自動詞化接辞 -e- は、使役主を変化対象と同定することで自動詞化を行う。
 (ii) 脱使役化⁵: 自動詞化接辞 -ar- は、使役主を意味構造で抑制し、統語構造に投射しないことで自動詞化を行う。

一方、影山によれば、英語では反使役化の操作しか持たないため、動作主による使役行為を前提とする動詞“plant”“build”が使役起動交替を起こさないと考えられる。同様に、日本語でも反使役化接辞 -e- が関わっている自動詞文では、出来事の成立に動作主の存在が前提となる場合、非文となる。

- (10) a. 彼は {約束 / 世界記録} を破った。
 b. *{約束 / 世界記録} が破れた。

反使役化が成立するためには、変化対象そのものが使役主として働く性質を持たなければ

ばならないが、「約束 / 世界記録」は自ら破れる力をもたず、それを破ることができるのは、意志的な動作主だけであるという、使役主に制限がある。よって、反使役化が適用されず、(10b)は非文となる。

このように、自他転換の接辞をもつ日本語では英語に比べ、使役起動交替がより自由に起るものの、(5)のような意味表示をもつ達成動詞のみが使役起動交替に参与し、また、それが使役起動交替の成立するための必要条件であるという点では共通していると言える。そして、使役起動交替の成立を妨げる共通の要因として、動作主の必然性が挙げられる。

3. 中国語の単音節動詞と使役起動交替

本節では、まず、中国語の単音節動詞の示す交替を日本語との比較を通じて考察し、日本語と異なり、表面上の自動詞文には、自動詞文と主題文の二つの構造が仮定できることを示す。次に、冒頭で示した(3b)のような現象を自動詞文と分析する Cheng を概観し、その問題点を指摘する。

3.1. 表面上の自動詞文について

2 節において、自他を区別する豊富な接辞体系を持つ日本語では、英語より使役起動交替が自由に行われることを述べた。一方、中国語は自他の形態的区別を持たないものの、以下で示すように、一見、日本語の自他交替と同様の振る舞いを見せる。

- (11) a. 彼らが家を建てた。 (使役化 -e)
 b. 家が建った。
 a'. 他们盖了栋房子。
 b'. 房子盖了。
- (12) a. 彼らは木を植えた。
 b. 木が植わっていた。 (脱使役化 -ar-)
 a'. 他们种了树了。
 b'. 树种了。
- (13) a. 花子がジャガイモを煮た。
 b. ジャガイモが煮えた。 (反使役化 -e-)
 a'. 张三煮了土豆。
 b'. 土豆煮了。

(11)－(13)における中国語の単音節動詞“種”“盖”“煮”は、一見、それぞれ日本語の「建てる－建つ」「植える－植わる」「煮る－煮える」に対応する自他両用動詞のように振る舞う。この場合、日本語の「建てる－建つ」「植える－植わる」「煮る－煮える」

は、それぞれ使役化、脱使役化、反使役化の操作に関わった自他交替の現象である。

さらに、以下で示すように、日本語の「書く」「洗う」などの動詞は自他交替を起こさないが、それに対応する中国語の“写”“洗”などの動詞は、自他両用動詞のように振る舞う。

(14) a. 张三写了那封信。

b. 那封信写了。

— Cheng (1989:81)

a'. Zhangsan があの手紙を書いた。

b'. *あの手紙が書いた。

(15) a. 张三洗了那条毛巾。

b. 那条毛巾洗了。

— Cheng (1989:81)

a'. Zhangsan があのタオルを洗った。

b'. *あのタオルが洗った。

しかし、日本語と異なり、主格・対格などの格表示や、自他を区別する形態的標識をもたない中国語では、(3)や(11)–(15)における単音節動詞の示す交替を直ちに他言語の自他交替と同様の現象と見なすことはできない。特に、上記の表面上の自動詞文を巡っては、(16)で示すように、それを純粋な自動詞文と分析する立場(Cheng (1989))と、目的語が主題化された主題文⁷と分析し、自動詞用法を認めない立場(黄 (1990))との間で議論が分かれている。

(16) a. 那封信写了。 (自動詞文)

'*あの手紙が書いた.'

b. 那封信; pro 写了 e_i。 (主題文)

'あの手紙は pro 書いた.'

黄 (1990) では、動詞“写(書く)”が他動詞用法しか持たず、表面上の自動詞文が(16b)のような構造を持つことを裏付ける証拠⁸として、この文では動作主の存在が含意されており、また以下で示すように、動作主を補うことも可能である事実を挙げている。そして、表面上主語“张三”が音形を持たない形で現れるのは、中国語が主語の脱落を許す言語⁹であるからだとする。

(17) a. 那封信写了。

b. 那封信[张三]写了。

'あの手紙は Zhangsan が書いた.'

本稿も黄 (1990) と同様、上記の単音節動詞は他動詞用法しかもたず、表面上の自動

詞文は目的語が文頭に移動されて主題となり、そこに主語が省略された主題文であると考えている。黄では、動作主が生起可能になる事実に基づいてそれを主題文と分析しているが、本稿では、主語と主題を区別するテスト（文頭の名詞句を疑問詞や特定名詞句に置き換えられるか否か、補文節に現れるか否か）に基づいて、問題となる現象が主題文であることを示す。

その議論に入る前に、以下では、本稿とは異なる立場で、“卖（売る）”“写（書く）”“洗（洗う）”などの動詞の示す交替を自他交替と見なす Cheng (1989) について概観し、その問題点を指摘する。

3.2. Cheng (1989)

Cheng (1989) は、“写（書く）”などの動詞が示す交替を自他交替現象と見なし、こういった交替は目的語が affected theme の場合に起るとする。したがって、影響された目的語として解釈されない動詞“喜欢（すきだ）”の場合は、こういった交替は不可能であるとする¹⁰。

- (18) a. 张三写了那封信。
 ‘Zhangsan があの手紙を書いた。’
 b. 那封信写了。
 ‘*あの手紙が書いた / あの手紙は書いた。’
 (19) a. 张三很喜欢小王。
 ‘Zhangsan は王さんのことがとても好きだ。’
 b. *小王很喜欢。
 ‘王さんがとても好きだ。’

さらに、Cheng は、(18b)と(19b)の文法性の対立は、(18b)を主題文と分析することに問題があることを示しているとする。つまり、もし(18b)を他動詞文における目的語“那封信（あの手紙）”が文頭に移動し、主語“张三（Zhangsan）”が省略された主題文と見なすと、なぜ同様の操作が(19b)には適用されず、非文になるのかの説明できないとする。ここから Cheng は、(17b)と(18b)の文法性の対立は、影響された目的語をとる動詞のみ自他交替を可能にするという自他交替の問題と関係しているとする。

3.3. Cheng (1989) の問題点

Cheng でいう影響された目的語をとる動詞というのは、Vendler (1967) の動詞 4 分類の中の達成動詞或いは到達動詞に相当するものであると考えられる。しかし、以下で示すように、影響された目的語を取らない動作動詞“看（見る）”“晒（干す）”の場合でも、こういった交替が可能である。

- (20) a. 张三看了电视。
 ‘Zhangsan がテレビを見た。’
 b. 电视看了。
 ‘テレビは見た’
- (21) a. 张三晾了衣裳了。
 ‘Zhangsan が服を干した。’
 b. 衣裳晾了。
 ‘服は干した。’

動作動詞の場合でも、こういった交替を許す事実は、Cheng の主張に対する反例となり、また、単音節動詞の示す交替を直ちに自他交替、つまり、使役起動交替と見なさない本稿の主張に対する間接的な証拠にもなると考えられる。なぜなら、使役起動交替は達成動詞と到達動詞の交替現象だからである。

また、本稿では、目的語を文頭に移動させる操作が(19)に適用されないことについては、目的語“小王（王さん）”がその移動先で“喜欢（すきだ）”の対象ではなく経験者と解釈されるためであると考えている。つまり、(19a)と同じ意味を表さないため、目的語の文頭への移動は阻止されると考えられるのである。同様の現象は、(20)における目的語“电视（テレビ）”を有生名詞“李四（Lisi）”に置き換えた場合にも観察される。つまり、(22b)における“李四（Lisi）”は移動先で、対象ではなく動作主として解釈されるため、(22a)と同様の解釈になれず、こういった操作は阻止される。

- (22) a. 张三看了李四（一眼）。
 ‘Zhangsan が Lisi を見た。’
 b. *李四看了。
 ‘Lisi は見た。’

このように、目的語が文頭に移動され、主題になれるか否かは、単純に動詞の問題だけでなく、目的語の有生性の問題ともおそらく関係していると考えられる¹¹。したがって、Cheng が指摘している(19)は、本稿の分析に対する真の反例にはならないと考えられる。

4. 目的語が主題化された主題文であることを示す証拠

本節では、先行研究で提案されている主語と主題を区別するテストに基づいて、本稿で問題とする表面上の自動詞文における文頭の名詞句が主題であることを示す。

4.1. 文頭の名詞句と指示性

主語の場合と異なり、主題となり得るのは、話し手と聞き手との間で指示対象が明らかな定名詞句或いは総称名詞句に限られる (Li & Thompson (1976)、湯 (1979) etc.)。以下では、主題のもつこういった特徴に基づいて、本稿で問題とする表面上の自動詞文における文頭の名詞句が主題であることを示す。

まず、疑問詞は、不定名詞句であるため、主題の位置には現れないことが指摘されている (澤田・中川 (2004))。これは、以下で示すように、主語“小王 (王さん)”は、それを問う疑問詞“誰 (誰)”に置き換えることができるのに対し、主題化された“苹果 (りんご)”は、それを問う疑問詞“什么 (何)”に置き換えられない事実から裏付けられる。

- (23) a. 小王吃了苹果。 (主語)
 ‘王さんがリンゴを食べた。’
 b. 誰吃了苹果?
 ‘誰がリンゴを食べた?’
- (24) a. 苹果小王吃了。 (主題)
 ‘リンゴは王さんが食べた。’
 b. *什么小王吃了? (小王吃了什么?)
 *何は王さんが食べた? ‘王さんが何を食べた?’

ここで、自動詞用法しか持たない典型的な自動詞文¹²と本稿で問題とする表面上の自動詞文における文頭の名詞句を疑問詞に置き換えてみると、以下のようになる。

- (25) a. 电脑坏了。 (自動詞文)
 ‘コンピュータが壊れた。’
 b. 什么坏了?
 ‘何が壊れた?’
- (26) a. 那封信写了。
 ‘あの手紙は書いた。’
 b. *什么写了。 (写什么了?)
 *何は書いた? ‘何を書いた?’
- (27) a. 那本书卖了。
 ‘あの本は売った。’
 b. *什么卖了? (卖什么了?)
 *何は売った? ‘何を売った?’

(25)における文頭の名詞句“电脑 (コンピュータ)”がそれを問う疑問詞に置き換えら

次に、主語と主題を区別するテストとして、湯 (1979) で提案されている文頭の名詞句を“有～(ある～)”特定名詞句に置き換える操作が挙げられる。特定名詞句は、話し手だけにその指示対象が明らかであって、聞き手には明確でないため、(28b)で示すように、それを主題として用いることはできない。

- このテストを典型的な自動詞文と本稿で問題とする表面上の自動詞文に適用してみると、以下になる。

- (29)における文頭の名詞句“电脑（コンピュータ）”が特定名詞句“有一台电脑（ある一台のコンピュータ）”に置き換えられるのは、それが主語であるためであると考えられる。一方、(30)と(31)における文頭の名詞句“那封信（あの手紙）”と“那棵树（あの木）”が特定名詞句“有一封信（ある一通の手紙）”と“有一棵树（ある一本の木）”に置き換えられないのは、主題であるためであると考えられる。

— 62 —

4.2. 補文化テスト

湯 (1987) や望月 (2003) ¹³ は、主題は主文全体を修飾するため、補文に現れると不自然になることを指摘している。

- (32) a. 我相信 [你一定见过张先生]。 (他動詞文)
‘私は君がきっと張先生に会ったことがあると信じている。’
b. ? 我相信 [张先生 你一定见过]。 (主題文)
‘私は信じている、張先生に、君がきっと会ったことがあると。’
—湯 (1987:123)
- (33) a. 我知道 [小王吃了那个苹果]。 (他動詞文)
‘私は王さんがあのリンゴを食べたことを知っている。’
b. ?? 我知道 [那个苹果小王吃了]。 (主題文)
‘私はあのリンゴは王さんが食べたことを知っている。’

(32a) (33a) と (32b) (33b) の文法性の対立は、補文節が無標の語順である他動詞文の場合には適格文になるが、目的語が主題化された主題文の場合には不自然になることを示している。

ここで、上記の補文化テストを典型的な自動詞文と本稿で問題とする表面上の自動詞文に適用してみると、以下ようになる。

- (34) a. 那台电脑坏了。 (自動詞文)
‘あのコンピュータが壊れた。’
b. 我知道 [那台电脑坏了]。
‘私は [あのコンピュータが壊れている] ことを知っている。’
- (35) a. 那封信写了。
‘あの手紙は書いた。’
b. ?? 我知道 [那封信写了]。
‘私は [あの手紙は書いた] ことを知っている。’
- (36) a. 那条毛巾洗了。
‘あのタオルは洗った。’
b. ?? 我知道那条毛巾洗了。
‘私は [あのタオルは洗った] ことを知っている。’
- (37) a. 土豆煮了。
‘ジャガイモは煮た。’
b. ?? 我知道 [土豆煮了]。
‘私は [ジャガイモは煮た] ことを知っている。’

(34a)がそのままの形で補文節となっている(34b)が適格文となるのは、文頭の名詞句が主語であるためであると考えられる。これに対し、(35a)(36a)(37a)がそのままの形で補文節となる(35b)(36b)(37b)が非文となるのは、文頭の名詞句が主題であるためであると考えられる。

このように、本稿で問題とする表面上の自動詞文がそのままの形で補文節に現れることができないのは、これらの文が主題文であるためであると考えられる。

5. 動詞のアスペクト性と使役起動交替

本節では、中国語の単音節動詞が使役起動交替を起こさない理由について考察する。2節で述べたように、従来の分析では、使役起動交替に参加する他動詞は必ず結果状態まで含意する達成動詞でなければならず、また、それは使役起動交替が成立するための必要条件であることが指摘されてきた。もし本稿で注目する中国語の単音節動詞が示す交替也使役起動交替と同様の現象であるとする、他動詞は必ず結果まで含意する達成動詞であるということになる。しかし、これまでの先行研究では、他言語において結果まで含意するとされている動詞が、中国語では必ずしも結果まで含意しないことがしばしば指摘されており(Tai (1984)、荒川 (1986)、宮島 (1989)、Lin (2004))、それは主に、次のような結果キャンセル文のテストによって示されている。

(38) a. *I killed John but he didn't die.

b. 张三杀了李四两次、李四都没死。

c. *张三杀死了李四两次、李四都没死。

— Tai (1984:291)

(39) * 太郎が次郎を二度殺したが、次郎は死ななかった。

英語の「kill」と日本語¹⁴の「殺す」は、殺した結果、被動作主が死ぬ、という結果状態まで含意する達成動詞であるため、(38a)と(39)で示すように、指定された結果状態を後節で否定しているキャンセル文は成立しない。それに対し、中国語では(38b)で示したように、動詞“杀”が結果状態まで含意しないため、キャンセル文が成立すると考えられる。ここから、Taiは、中国語の動詞“杀”は、「殺そうとする」という意味を表す動作動詞であるとし、被動作主が死ぬという結果状態まで表すためには、複合動詞“杀死”¹⁵を用いる必要があるとする。複合動詞“杀死”の場合は、(38c)で示すように、結果キャンセル文が成立しない。

ここで、本稿で注目する単音節動詞にも結果キャンセル文を適用してみると、以下で示すように、いずれも適格文になることが分かる。

- (40) a. 张三昨天写了一封信、可是没写完。
 b. *张三昨天写完了一封信、可是没写完。 — Tai (1984)
 c. *Zhangsan は昨日一通の手紙を書いたが、書き終わらなかった。
- (41) a. 张三去年盖了一栋房子、但到现在还没盖完。
 b. *张三去年盖完了一栋房子、但到现在还没盖完。
 c. *Zhangsan が去年一軒家を建てたが、まだ「建たなかった / 建て終わらなかった」。
- (42) a. 我煮了一个土豆、可是土豆没「煮熟／熟」。
 b. *我煮熟了一个土豆、可是土豆没「煮熟／熟」。
 c. *Zhangsan が一個のジャガイモを煮たけど、ジャガイモは煮えなかった。

(40)－(42)で示したように、日本語の「書く」「建てる」「煮る」などの動詞は、行為の結果状態まで含意する達成動詞であるため、その指定された結果状態を後節で否定するキャンセル文は成立しないと考えられる。それに対し、中国語の“写(書く)”“盖(建てる)”“煮(煮る)”などの単音節動詞は、行為の結果状態まで含意しない動作動詞であるため、(40a)－(42a)で示すように、結果キャンセル文が成立すると考えられる。

以上から、中国語の単音節動詞が使役起動交替を起こさないのは、これらの動詞が結果状態まで含意しない動作動詞であるためであると考えられる。これは、結果状態まで含意する複合動詞の場合、使役起動交替が可能となる以下のような事実からも支持される。

- (43) a. 张三煮「好／熟」了土豆。
 'Zhangsan がジャガイモを煮た.'
 b. 土豆煮「好／熟」了。¹⁶
 'ジャガイモが煮えた.'
- (44) 土豆煮「好／熟」了。
 a. 什么煮「好／熟」了? (不定名詞句)
 '何が煮えた?'
 b. 有一个土豆煮「好／熟」了。 (特定名詞句)
 'ある一個のジャガイモが煮えた.'
 c. 我知道「土豆煮「好／熟」了」。(補文節)
 '私は「ジャガイモが煮えた」ことを知っている.'

(44)は、(43b)が主題文ではなく、自動詞文であることを示しているといえる。よって、(43)における複合動詞“煮「好／熟」”の示す交替は使役起動交替と同様の現象であると考えられる。要するに、単音節動詞“煮”の場合と異なり、複合動詞“煮「好／熟」”が使役起動交替を可能にするのは、日本語の「煮る」の場合と同様、行為の結果状態ま

で含意しているためであると考えられる。

6. おわりに

本稿では、Cheng (1989) で指摘された現象を含め、表面上、単音節動詞で使役起動交替を起こすように振る舞う中国語の現象を日本語との比較を通じて考察した。まず、本稿では、主語と主題を区別するテスト（文頭の名詞句を疑問詞や特定名詞句に置き換えられるか否か、補文節に現れるか否か）に基づいて、表面上の自動詞文は、実は目的語が主題化された主題文であり、一見、日本語と同様の振る舞いを見せる中国語の単音節動詞の示す交替は、使役起動交替とは別のものであることを示した。次に、本稿では、中国語の単音節動詞が使役起動交替を起こさないのは、これらの動詞が日本語の場合と異なり、行為の結果状態まで含意しない動作動詞であるためであることを主張した。

最後に、本文で取り上げることのできなかった問題に触れておきたい。本稿では、先行研究で使役起動交替を起こす少数の例外として指摘されている単音節動詞の示す交替については言及することができなかった。これらの動詞の示す交替に関しては、本稿でなされている主語と主題を区別するテストや結果キャンセル文のテストに基づいてさらに検証する必要があると考えられる。また、本稿では単音節動詞に焦点を絞って考察を行ったため、注2で述べたような複合動詞の使役起動交替の問題については、日本語との比較を通じて考察することができなかった。今後の課題としたい。

【注】

- 1 日本語にも自他同形の漢語動詞と少数の和語動詞が存在するが、本稿では自他異形の和語動詞に焦点をあて、中国語との比較を行う。
- 2 湯 (1989, 1992) では、中国語の単音節動詞は単純動詞 (simple verb) と見なすが、2音節からなる動詞は基本的に合成語 (complex verb)、つまり複合動詞と見なす。湯は、複合動詞をその内部構造に基づいて以下のように分類し、(ib) (ic) (id) に属する一部の動詞は使役起動交替に参与できることを指摘している。複合動詞の使役起動交替の問題に関しては湯 (2000)、望月 (2003, 2004) を参照のこと。
 - (i) a. 述賓式 (Predicate-Object Type): 結婚 (結婚する)、充電 (充電する)、留心 (留意する)
 - b. 述補式 (Predicate-Complement Type): 学会 (マスターする)、哭湿 (泣き濡らす)、縮小 (縮小する)
 - c. 偏正式 (Modifier-Head Type): 改組 (改組する)、暗杀 (暗殺する)、假装 (ふりをする)、轻视 (軽視する)
 - d. 並列式 (Coordinative Type): 改变 (変える)、停止 (停止する)、解决 (解決する)、动摇 (動揺する)
 - e. 主謂式 (Subject-Predicate Type): 胆小 (気が小さい)、性急 (性格がせっかちである)
- 3 望月 (2003, 2004)、Lin (2004) では、単音節動詞でありながら、使役起動交替を起こす少数の例外として「开 (開く)」「关 (閉じる)」「停 (止まる / 止める)」などの動詞を挙げているものの、本稿で問題とする単音節動詞の示す交替については、言及していない。
- 4 奥津 (1967) では、自他の派生関係を接辞の形態に基づいて、他動詞から自動詞への〈自動化〉、自

動詞から他動詞への〈他動化〉、そして共通の語幹から自動詞・他動詞への〈兩極化〉という三種類の接辞派生関係を想定している。詳細は奥津(1967)を参照のこと。

- 5 影山(2000)は、脱使役化が^{-ar-}接尾辞だけに特有の機能ではなく、^{-e-}接尾辞にも見られるとし、脱使役化と接尾辞が必ずしも一対一に対応するわけではないことを指摘している。

(i) a. (折り紙で)子供が鶴を折った。

b. ようやく鶴が折れた。(折り紙が勝手に鶴の形に変化することはない)

そして影山は、接辞^{-e-}が(9)で示したように、一方では使役化の接辞として機能し、他方では反使役化の接辞として機能していることについては、^{-e-}がCONTROLの主語を下位事象の主体と見なすか(反使役化)、別のものと見なすか(使役化)というCONTROLの主語に対する作用が違うだけであると説明している。詳細は影山(1996)を参照のこと。

- 6 中島(2007)は、単音節動詞「煮(煮る)」が自動詞として用いられる文を非文と判断し、日本語の「煮える」に対応するのは結果補語を伴う「煮好(煮る一よい)」であるとする。中国語の動詞「煮」が日本語の自動詞「煮える」に対応しない点については、本稿の立場とも一致するが、(ib)を非文と判断することには問題があると考えられる。

(i) a. 花子煮了豆。(花子が豆を煮た)

b. *豆煮了。(豆煮好了)(豆が煮えた)

- 7 専用の主題標識を持たない中国語では、語順が文法関係を決める重要な要素となり、主題は一般的に文頭の位置に現れるという特徴をもつ。徐・刘(1998)によれば、中国語における主題は大きく「论元共指性话题(アーギュメント主題)」と「語域性话题(ドメイン主題)」の2種類に分けられる。前者は、(16b)のように、主題成分が後続の文の述部と格関係を持つものであり、後者は以下の(i)のように、主題成分が後続の文の述部に対してある範囲を設定するものである。

(i) 那场火、幸亏消防队来得快。(その火事は、幸いにも消防隊がくるのが早かった)

- 8 黄(1990)は、“写(書く)”が自他両用動詞でないことを裏付けるもう一つの証拠として、他言語でも“写(書く)”に対応する動詞が自他交替を起こさない事実を挙げている。“写”の他に、“洗(洗う)”，“吃(食べる)”などの動詞も挙げている。しかし、本稿で挙げている“煮(煮る)”，“种(植える)”に対応する日本語では、“煮る一煮える”“植える一植わる”のように、自他交替を起こす。よって、他言語で自他交替を起こさない事実を根拠に中国語の動詞の自他交替の問題を論じることには問題があると考えられる。

- 9 中国語が主語と目的語の省略を許す言語であることについては、Huang(1984)を参照のこと。一方、英語は主語の省略を許さないため、“break”が自他両用動詞であっても、“My computer broke”に自動詞文と主題文の2つの構造を仮定することができず、自動詞文のみになると考えられる。

- 10 しかし、こういった交替が起らない動作動詞もある。以下で見るように、主題化操作は受けるものの、主語が音形を持たない形で現れると、非文となる。この問題に関しては、今後の課題とする。

(i) a. 他推了那辆车。(彼はあの車を押した)

b. 那辆车他推了。(あの車は彼が押した)

c. *那辆车推了。(あの車は押した)

- 11 袁(1996)は、関係動詞や目的語が有生名詞の場合、主題化操作が適用されないことを指摘している。詳細は袁(1996:244)を参照のこと。

- 12 柴谷(1990)で指摘されているように、日本語と異なり、専用の主題標識をもたない中国語では、他動詞文や自動詞文のような無標語順における文頭要素も主語(コンピュータが壊れた)だけでなく、主題(コンピュータは壊れた)と分析される可能性もあると考えられる。しかし、本稿でなされている主語と主題を区別するテストによれば、無標語順における文頭要素はいずれも主題の性質は持っていないことが分かる。そこで本稿では、無標語順における文頭要素は主語と見なし、分析を進めることにする。

- 13 望月（2003）では、主題が主語節に現れる以下のような補文化テストを挙げている。しかし、主題が文頭に現れると、埋め込み節に入っているかどうかが明確でないため、ここでは、湯（1987）にならう。

- (i) a. 书已经装满了。 (本は、もう詰めた)
b. ?? [书已经装满] 的消息使大家松了一口气。 (本がすでに詰められたという知らせが皆をほっとさせた)

木村（1981）においても補文化テストに基づいて、主題文（“包裹寄了（小包は送った）”）と自然被動文（“包裹寄走了（小包は送られた）”）を区別している。詳細は木村（1981）を参照のこと。

- 14 先行研究では、日本語の達成動詞の中にも結果の状態変化まで必然的に意味範囲に含まない動詞があることが指摘されている（池上（1980-1981）、影山（1996））。このような事実が存在することから影山は、日本語の達成動詞の概念構造を CAUSE ではなく、CONTROL という概念で規定している。詳細は影山（1996）を参照のこと。
- 15 中国語の結果複合動詞が英語の達成動詞に意味的に対応するものの、両者には明らかな相違点があると Tai（1984）は指摘している。詳細は、Tai（1984）を参照のこと。
- 16 木村（1981）では、動作の受け手が主語の位置に立つ（43b）のような文を自動詞文ではなく、自然被動文と呼んでいる。しかし、文頭の名詞句を主題ではなく主語とみなすことには本稿の立場と一致していると考えられる。一方、中島（2007）は、“好（よい）／熟（煮える）”などの結果補語は他動詞を自動詞化する機能を持つとし、（43b）を自動詞文と見なしている。また、抽象的な動作を表す“弄（する）／打”などの軽動詞は、“他弄坏了电脑（私がコンピュータを壊した）”のように、自動詞を他動詞化する機能をもつことも指摘されている（望月（2003、2004）、中島（2007））。

【参考文献】

- 荒川清秀（1986）「中国語にみられるいくつかのカテゴリー」『愛知大学文学会文学論叢』67, 1-25
- 池上嘉彦（1980-1981）「Activity」－‘Accomplishment」－‘Achievement」－動詞意味構造の類型－』『英語青年』
- 奥津敏一郎（1967）「自動化・他動化および両極化転形－自・他動詞の対応－』『国語学』70, 46-66
- 影山太郎（1996）『動詞意味論－言語と認知の接点』くろしお出版
- 影山太郎（2000）「自他交替の意味的メカニズム」『日英語の自他の交替』33-70, ひつじ書房
- 影山太郎（2001）『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店
- 木村英樹（1981）「『被動』と『結果』」『日本語と中国語の対照研究』5, 27-46, 日本語と中国語の対照研究会
- 澤田浩子・中川正之（2004）「中国語における語順と主題化」『主語の対照』19-42, くろしお出版
- 柴谷方良（1990）「主語と主題」『講座 日本語と日本語教育』12, 97-126, 明治書院
- 中島悦子（2007）『日中対照研究 ヴォイス－自・他の対応・受身・使役・可能・自発－』おうふう
- 宮島達夫（1989）「動詞の意味範囲の日中比較」『ことばの科学 2』179-198
- 望月圭子（2003）「日本語と中国語の使役起動交替」『松田徳一郎教授追悼論文集』236-260, 研究者出版
- 望月圭子（2004）『動詞の使動與起動交替：漢・日語対照研究』國立青華大学 博士論文
- 黄正徳（1990）「中文的两种及物动词和两种不及物动词」『第二届世界华语语文教学研讨会论文集－理论与分析篇（上册）』41-59
- 湯廷池（1979）「主語的句法與語意功能」、「主語與主題的畫分」『國語語法研究論集』65-80, 台湾学生書局
- 湯廷池（1987）『中国語變形文法研究』松村文芳 訳 白帝社
- 湯廷池（1989）「詞法與句法的相關性：漢、英、日三種語言複合動詞的對比分析」『漢語詞法句法 統集』147-211, 台湾学生書局

- 湯廷池 (1992) 「漢語述補式複合動詞的結構、功能與起源」『漢語詞法句法四集』95-164
- 湯廷池 (2000) 「汉语复合动词的使动与起动交替」『第七届中国境内语言语言学国际讨论论文集』233-251
- 徐烈炯、刘丹青 (1998) 『话题的结构与功能』上海教育出版社
- 袁毓林 (1996) 「话题化及相关的语法过程」『中国语文』第4期、241-254
- Cheng, Lisa L.-S. (1989) Transitivity alternation in Mandarin Chinese. In *Proceedings of the 3rd Ohio Univeresity Conference on Chinese Linguistics*. 81-94. Columbus, Ohio.
- Huang, C.T.J. (1984) On the Distribution and Reference of Empty Pronouns, *Linguistic Inquiry*, 15, 531-574.
- Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav (1995) *Unaccusativity: At the Syntax-Lexical Semantics Interface*. MIT Press.
- Lin, Jimmy (2004) *Event Structure and the Encoding of Arguments: The syntax of the Mandarin and English verb Phrase*. Doctoral dissertation, MIT
- Tai, James (1984) "Verbs and Times in Chinese: Vendler's Four Categories," CLS Parasession on Lexical Semantics, 289-296

(サイ ギョクカ 筑波大学大学院博士課程
人文社会科学研究所 応用言語学)